

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「個人を尊重し、個別のニーズや希望に寄り添いながらはつらつとした豊かな暮らしを支援する。」を基に職員で意見を出し合い、各ユニットの理念を掲げ取り組んでいる。	開所当初から地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者が地域の中で健やかに暮らし続けられるために、職員間で話し合いを持ち、事業所独自の理念を作り上げ日々のサービス提供に努めている。気づきがあればその場で声をかけ合ったり、ミーティングの中で話し合ったりしながらサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、自治会長、民生委員に参加して頂いている。町内会に加入し、地域の行事にもできる限り参加している	近隣の人々とは挨拶を交わすのみでなく、町内会にも加入するなど、地域の一員として合同避難訓練にも参加し連携を図っている。地域行事があれば出かけていくなど、近隣の方々や小学生からの気軽な訪問を受けたりと、日常的に交流を深めてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のケア会議において、地域の方々に認知症の人の理解や支援方法を伝える担い手として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回定期的に開催している。入居者の状況や活動を報告し、様々な意見や要望を頂き職員に周知することでサービス向上に生かしている。	会議は定期的に行われ、家族、利用者については参加メンバーは特に決めておらず、可能な限り参加を呼びかけている。会議は和やかな雰囲気となり、状況報告や情報交換のみならず、メンバーからの意見、質問を受けて双方向的な会議となっている。特に家族や利用者からの意見は貴重なものとなり、全職員が共有してサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が継続参加しており、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。	地域包括支援センターの職員から運営推進会議のメンバーになってもらっており、折に触れ事業所の取り組み状況や利用者の状況を伝えアドバイスを頂きながら、日頃から何でも相談出来る協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ユニットの出入り口の施錠はせず閉塞感を与えないように配慮している。但し、離設等の危険回避のため、玄関に赤外線センサーを設置している。	利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識の下、定期的に学ぶ機会を設け、職員の共通認識を図り意識的に取り組んでいる。何気なく発する言葉に気づいた時はその場で注意し合い、安全確保に努めながら抑圧感のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員ともに、研修を通して学び、日頃より対応防止に取り組んでいる。	「高齢者虐待防止法」について定期的に内外研修で学び、理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。今後も利用者との関わりの中で、言動や行動について振り返る機会を設けていきたい、と意欲的である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員ともに、研修を通して学び、利用者や家族の支援を行っている。実際に成年後見制度を利用している方の支援を行っていたこともあり、実践で学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、質問や不安にお答えすることで理解、納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族から参加して頂いたり、面会の際には管理者、職員が直接意見や要望を聞く機会を設け、実現に向けて取り組んでいる。	面会時や運営推進会議で何でも話しやすい雰囲気作りに努める中で、利用者、家族からも自由な発言をもらうことが出来ており、頂いた意見は会議やミーティングの中で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の朝礼や職員会議、ミーティングで職員からの意見を聴き、反映させるよう努めている。月1回の本社会議において代表者に職員の意見を伝える機会がある。	管理者はミーティングや職員会議の中で職員の意見や要望を聴く機会としている。また、日頃からどんな些細なことにも耳を傾け、業務改善について話し合いながら運営に反映させている。月1回の本社会議は代表者に職員の意見や提案を聴いてもらう大切な機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し、資格取得者には祝い金や資格手当を支給し、励みとなるような制度を設けている。又、夏季、冬季休暇をそれぞれ3日づつ支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員教育の研修制度を設けサービスの質の向上に取り組んでいる。外部研修の参加も研修費の助成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市内のグループホーム情報交換会が開催され、参加している。事例検討や活動報告を通してサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問等をし、本人の困りごとや不安な気持ちを伺い、家族の意見と照らし合わせながら安心して暮らせる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族と面談を行ない、今までの生活状況や入居に関する質問や不安に思っている事に耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の相談を受けた際、グループホームとして即入居ができない場合においては、他施設サービス利用について説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で家事の分担や、季節の壁飾りの制作を職員と一緒にしたりと、お互いに支え合う関係性が築けるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度ホームでの生活の様子を担当者の写真入りのお便りとして家族に送っている。又、日頃から何でも話しやすい雰囲気作りを心がけ、入居者、家族。職員の信頼関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添いながら、毎月の手紙の中や面会時に日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、計画作成時もカンファレンスへの参加を得ている。馴染みの理美容院利用や自宅外泊を通して、協力的な家族も多く、共に本人を支えていく姿勢に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人が訪ねてきた際は、おもてなし等で、次回も訪問しやすい雰囲気作りを行っている。墓参りや、行きつけの理容店などへの外出も自由にできることでお互いの関係を継続していけるよう支援に努めている。	在宅時から利用していた理美容院へ行き続けている利用者や外出の折は家族と共に外食を楽しんだりする利用者、菩提寺への墓参りする利用者もあり、思い出話に耳を傾けながら、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。近隣の方々や友人の訪問の際は、誰でもが気軽に立ち寄れる事業所としての雰囲気づくりに努め、馴染みの人や場所との関係が継続出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめる遊びの時間を取り入れたり、対人関係を観察しながら職員が間に入ることによってトラブルを回避し、孤立せず、支え合える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて家族からの相談・支援に努め、本人の経過を共に支えている。家族の御好意から現在もボランティアとして協力頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や何気ない言動の中から気付いたことに、家族からの情報も照らし合わせて本人の意向に沿えるよう心掛けている。	職員は日頃の何気ない会話や言動の中からの気づき、家族からの情報も得ながら本人本位に検討し、一人ひとりの思いや暮らし方の意向の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族への聞き取りや、日常の会話の中から生活歴や暮らし方の把握できるよう努めている。	利用開始前に家族からこれまでの生活や暮らしぶりを聞き取り、前担当者や関係者からも必要な情報を得ながら暮らしの把握に努めている。入居後も本人や家族との会話の中から得られたことを共有し、これまでの生活が継続できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に目を向けて小さな変化や気づきを情報共有することで、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期や必要時に、本人、家族、職員から聞き取りを行う担当者会議を行い、作成している。全体での話し合いの機会ができていないが、記録の回覧等で周知を促している。	本人及び家族の意向を把握し、計画作成者と居室担当者を中心に職員間で話し合い、お互いの意見を反映して現状に即した介護計画を作成している。毎月、全員でモニタリングを行いながらケアプランを確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を個別に作成している。特変時等には別紙に記録し申し送りをを行い、情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスのマッサージを導入したり、受診同行サービスを活用し個々のニーズに寄り添う支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会を通して、地域のお祭りにお誘い頂き、できる限り参加をしている。地域の認知症カフェや図書館、公民館で開催される作品展に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望も検討し、医療連携表での情報提供によりかかりつけ医からの適切な指示を仰いでいる。薬剤師とも連携し支援している。	かかりつけ医の受診支援は家族同行の受診を基本としている。情報提供書を作成し受診結果については家族から情報を確認している。場合によっては職員が同行することもある。協力医の毎月の往診もあり、適切な医療を受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している看護師が定期訪問しており、日頃の様子や状態を把握しやすいよう情報提供をしている。24時間体制でいつでも助言、指示をもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカーに情報交換や、家族と共に相談の機会を設けてもらえるようにしている。近く入院している場合はできる限り面会に訪れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前及び必要時には事業所でできることの説明を行っている。状態の変化のある時には密に状況説明を行い、医療職とも協力体制を取っている。	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行っている。状態変化が見られた際には主治医、家族に状況説明を行うなど、密に連絡を取りながら事業所で出来る限りの対応を行なっている。対応困難になった場合には、他施設への移行も支援しているが、利用者や家族が事業所で安心して過ごせるように相談を持ちながら支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時に看護師による症状別の応急手当の講習やAED講習を行っている。定期的に行い、実践力を身に付けていきたい。	開設時に救命救急法や応急手当等の講習を受け、全職員が対応出来るように習得している。また、急変時のマニュアルを作成し急変時や事故発生時に備え、職員が不安なく対応できるように取り組んでいる。	今後も定期的な研修を行うことで理解度を深め、急変時に適切な対応ができるよう更に実践力を身に付けていけることが望まれる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの総合防災訓練・夜間想定訓練を定期的に行っている。地域との避難訓練や実際の水害時には協力体制を築いている。	緊急時の連絡網や避難マニュアルを作成している。消防署の協力を得て夜間を想定した訓練も実施している。また、地域との協力体制も良く、訓練時の参加協力も得ており、非常食等の備品も充実している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して実践に生かせるように努めているが、個々の対応に差がみられる。統一した認識が持てるように努めていきたい。	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねることのないような対応に努め、さりげないケアを心がけているが、時として個々の対応に差が見られることもあるため、今後も研修を重ねて行き全職員の理解を深めていきたい、と考えている。	定期的な研修会を開催し、研修を通して利用者一人ひとりの人格を尊重し、声かけには敬意をもったきめ細かな対応となるようなケアに取り組まれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりの中で、自己決定ができるよう意図的な言葉かけをするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決めているが個々のペースを大切に、無理強いせず、希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着衣や外出の際は身だしなみが整えられるように支援している。行きつけの理容店に行ったり、出張美容サービスの利用により散髪や白髪染め等その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや切る、和える等是可以する方をお願いをして職員と一緒にしているが、配膳、片づけは自ら率先して行っている。手作りのお菓子は食卓を囲んで皆で参加して作っている。	利用者の状態や希望に合わせて、一人ひとりの得意なことに力を発揮している。出来ることには見守りながら食事が楽しめるように取り組んでいる。日常の会話の中で嗜好や食べたい物を聞きながらメニューに取り組んでみたり、また、利用者と職員が協力して育てた野菜や地域からの頂き物もよく食卓に上り、楽しい食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックや水分摂取量のチェックは1日を通して行っている。個々の状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの支援を行っている。又、週1回義歯洗浄剤で洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の意向を汲み取りながら、排泄パターンを把握することで失敗を減らし、トイレでの排泄の支援を行っている。	一人ひとりの排泄の自立度に合わせた支援に努めている。排泄パターンや習慣を把握して、早めに声掛けや見守りを行いながら、利用者の自立に向けた排泄支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックや乳酸菌、繊維を多く含む食品の提供を心掛けたり、朝食後の排泄を促すことで薬剤だけに頼らない対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員配置や安全面での問題があり、入浴日や時間はあらかじめ設定しているが、できる範囲で個々の希望に沿えるよう対応している。	入浴日や時間帯は設定されており、だいたいは施設のペースに合わせて入浴している。希望があれば回数を増やしたり、時間帯を変更したりしながら対応し、ゆったりと入浴してもらうように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に過ごしていただいている。昼寝も休息として取り入れている。夜は体調や習慣を考慮し、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅管理指導を導入していることで、個々の服薬管理が安全に行われ必要時相談ができる支援体制となっている。医師との連携もスムーズに行える。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々の生活歴や得意なことを生かした役割や仕事を持ち、感謝やねぎらいの気持ちを伝えることで張り合いを持って過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や個々の希望に応じて外出支援ができるよう努めている。頻度はまだ少ないが、散歩や買い物に出かけている。希望に沿えるよう行事に取り入れたり、家族の協力により支援している。	家族の協力もいただきながら散歩や買い物等、日常的な外出や希望があれば外泊支援にも努め、年間行事計画を立て季節に応じた外出を行っている。近くの小学校の運動会の応援も張り合いとなっている等、外出が楽しめるように支援している。また、近くに畑を作り職員と共に手入れや収穫の共同作業を楽しむ姿は生き生きとしたものとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭所持はお断りしているが、家族よりお小遣いを預かっており必要な日用品やおやつなどは外出時に自由にお買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接ではないが、職員が電話を取り次いだり掛ける等の支援を行っている。手紙が来ることはあるが出したことはない。今後、必要があれば支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にプランター花壇を置いて季節の花を植えたり、玄関ホールや食堂に季節感のある飾り物を施している。居間や居室内にも自然光を取り入れ温かみのある空間を演出できるよう工夫している。	共有スペースには開放的にゆったりと過ごせるように小上がりの畳スペースもあり、全体的に落ち着いた雰囲気づくりを心がけ、室温にも配慮している。トイレもゆったりとしており、使い勝手が良いようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはテーブル・椅子・ソファが置いてあり、畳敷きの小上がりも設置されている。それぞれの場所で思い思いに過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある小物やタンス、ベッドを自由に持ち込みして頂いている。家族の写真を飾ったり、壁面に手作りの手芸作品を飾ったりしている。	洋室と和室があり利用者の好みや体調によって対応している。居室は利用者や家族と相談しながら使いなれた物や好みの物を利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。また 定期的な整理整頓に努めており衛生面も行き届いている。利用者は自分の生活スタイルに合わせて、自由にホールに出たりソファや畳コーナーで休んだりしながら自由な時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー設計になっており、廊下や居間に手摺りを設置している。浴槽は一般浴槽にて個々の身体状況に合わせた支援を行っている。		